

事後評価報告書

1. 基本情報

実行団体名	株式会社ヒトココチ
実行団体事業名	学校の長期休みを中心にした函館圏のセンターとなる学童保育所の開設
資金分配団体名	一般社団法人北海道総合研究調査会
資金分配団体事業名	北海道未来社会システム創造事業
事業の種類	草の根活動支援事業
実施期間	2020年4月～2023年3月
事業対象地域	函館および渡島管内

2. 事業概要

(1) 事業によって解決を目指す社会課題

昨今、社会全体の雇用の流動性の高まりにより、小学校の長期休みのみ学童保育所を利用したいという保護者のニーズが高いにも関わらず、既存の学童保育所においては、設備投資費や雇用の確保が見通せないため、その対応ができていないという課題がある。また、学童保育利用の保護者のみならず、母子家庭や低所得層世帯からは、学校の授業についていけない我が子のための個別の学習支援を目的とした安価な塾を求める声も強い。これら2つの社会課題を本事業によって解決したいと考える

【想定した直接的対象グループ】

函館圏の小学生とその保護者

(2) 事業の概要

<p>①中長期アウトカム</p> <p>函館圏(函館市と周辺市町村)において、小学生のこどもをもつ保護者の不安や悩みが解消し、子育て環境が改善される。函館圏の小学生にとっては、日常が豊かな出会いと体験にあふれ、日々の生活が楽しくなる。これらにより家庭内の親子間のコミュニケーションが育ち、円満な家庭環境を軸に、地域社会も健全に育っていく。</p>
<p>②短期アウトカム</p> <ol style="list-style-type: none">1. 函館圏において、小学生の保護者が、仕事のやりがいと生きがいを獲得する2. 函館圏において、小学生が、地域で生きることの楽しさを実感できる
<p>③実施した活動</p> <p>(1) 函館市末広町にある臥牛館カルチャーセンター内に、学校の長期休み時期のみ開所する学童クラブ「ひのてんQ」を新規開設した。2020年度夏休み～2022年度冬休みまでに、開所日数は、合わせて約120日間、のべ利用人数は、およそ1,200人に達した。事業に関わったスタッフ数は、のべ480人。</p> <p>(2) 同じく函館市末広町にある臥牛館カルチャーセンター内に、小学生～中学生が通う、学習サポート塾「みかん箱」を新規開設した。2020年度7月～2022年度12月までに、約500日間開講、開講した授業数は、およそ800回、のべ利用人数は、およそ2,000人に達した。事業に関わったスタッフ数は、のべ1,500人に及ぶ。</p>
<p>④出口戦略</p> <p>「財政面での自立に向けて3つの方策」 ～収入の柱である参加者からの会費収入をのばしていく～</p> <p>(1) 受け入れ可能な定員を今後も着実に増やしていく。事業に関わるスタッフ（講師）の力量を高め、定員が増えても質を落とさず同様の成果を生み出す。 現在のひのてんQの年間登録定員16名を25名に増やし充足をめざす。 現在のみかん箱の登録定員20名を30名に増やし充足をめざす。</p> <p>(2) 保護者の負担額（ひのてんQとみかん箱の月額の利用料金）を値上げする。 現在、ひのてんQ/長期休みの日数に応じて、1万円～2万円を、自走化のために、1.2万円～2.4万円に値上げする。 みかん箱/1回あたりの単価1,000円を、1,500円程度に値上げをめざす。</p> <p>(3) 自治体（我々の場合は、函館市）と連携し、将来的には函館市からの委託事業という形をめざす。</p>

3. 事後評価実施概要

(1) 実施概要

①この事業の重要なポイントとして設定した変化

本事業の評価にあたり、重要なポイントは、小学生のこどもをもつ保護者の下記2つの不安の解消である。

(1) 我が子の長期休み期間の過ごし方について

(2) 我が子の学習理解に関する不安について

上記2点が、事業の実施により、安心感をもてる状況へと変化したかどうか重要なポイントになる。

②事後評価のための実施した調査

調査 I	【関連する短期アウトカム】 「学習支援事業（みかん箱）について」 函館圏において、小学生の保護者が、仕事のやりがいと生きがいを獲得する
	1) 調査及び分析方法 保護者への聞き取り調査を実施した。調査項目は、みかん箱への参加動機、感想、要望、期待、改善点などについてである。
	2) 実施時期 2022年11月～12月
	3) 対象者 参加者20名中、無作為に抽出した6名の保護者
	4) 結果（明らかになったこと） 「学習支援事業（みかん箱）について」 保護者の事業前の不安の中味は、こどもの学習理解面での現在地が分からず、果たして今のままで良いのかどうかという漠然とした悩みを抱えているという点である。 そのため、下記のような要望をもつ保護者が多い。 (1) 学校以外のところで、我が子の学習面のアドバイザー（相談者）が欲しい (2) 我が子に対して、学校からの評価以外の他者の視点も聞きたい (3) 学習嫌いの我が子に、どこかで学ぶ楽しさを体験させたい 今回の調査により、事業の実施により、次のような効果が認められた。 (1) 保護者から学習相談を受けるケースが増え、みかん箱が学習相談の受け皿になっている (2) 多くのこどもがみかん箱に「学びの楽しさ」を見出して毎回通っている (3) 学校とは異なり、遊び感覚で自由に学べる点を評価している保護者が多い (4) こどもが家で、今日の取り組みを自発的に話してくれることにより、保護者は安心感を得ている

調査Ⅱ	【関連する短期アウトカム】
	「学習支援事業（みかん箱）について」
	函館圏において、小学生が、地域で生きることの楽しさを実感できる
	1) 調査及び分析方法 みかん箱に参加する小学生への聞き取り調査を実施 調査項目は、参加している小学生より、事業に対する感想などに関して、自然な会話の中から聞き出す方法で行った。
	2) 実施時期 2022年11月～12月
3) 対象者 参加者の中から、無作為に抽出した6名の小学生に対面にて聞き取り調査を実施	
4) 結果（明らかになったこと） 「学習支援事業（みかん箱）について」 （1）みかん箱と学校での学習をくらべたときに、自分のペースに合わせて、楽しくかつ遊び感覚で学ぶことができる点についての評価が高い （2）学校の評価とは別の視点での評価をみかん箱の場で獲得することにより、自己肯定感が芽生え、かつ新たな居場所として感じている点が認められた	

調査Ⅲ	【関連する短期アウトカム】
	「長期休みの学童保育事業（ひのてんQ）について」
	函館圏において、小学生の保護者が、仕事のやりがいと生きがいを獲得する
	1) 調査及び分析方法 保護者より、利用の動機、感想、要望、期待、改善点などに関して、アンケートに記入してもらう形で行った。また、長期休み中の送迎時に、簡単な聞き取りも実施した。
	2) 実施時期 2021年8月～9月
3) 対象者 参加した小学生の保護者	
4) 結果（明らかになったこと） 「長期休みの学童保育事業（ひのてんQ）について」 長期休み期間に関して、保護者の抱える悩みは、事業実施前においては以下の2点に集約される。 （1）日中のこどもの預け先がない場合、仕事中に、こどもが屋内外において、一人もしくは友達同志で過ごすことが多くなり、万が一の事故やトラブルに巻き込まれる危険性がある。 （2）貴重な長期休みの期間に、こどもに豊かな体験を提供することが、経済的・時間的に困難である。 事業の実施により、次のような効果が認められた。 （1）こどもが帰宅後、学童保育での日々の体験を生き生きと保護者に話してくれることが、保護者に安心感を与えている。 （2）こどももまた、親との対話の時間が増えることにより、内面に安心感が育ち、意欲的に学校や学童保育での活動に励むことができるという好循環が生まれている。	

③調査結果の考察（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたか）

<p>(1) 価値判断の基準にした点 こども対象にした今回の2つの事業において、検証する際の判断基準は「参加しているこどもが楽しく自発的に通えているかどうか」という点にすべてが集約されていると考える。なぜなら、この点が達成されていることにより、ひのてんQにおいてもみかん箱においても、そこで過ごす時間が、こどもにとって充実していることを示し、保護者にとっての安心感へとつながるからである。 本事業は、保護者や参加している小学生からの聞き取りやアンケート調査により、この点においては概ね成功していると言える。</p> <p>(2) 本事業のみが短期アウトカムに直結しているかどうかについての考察 短期アウトカムに掲げた「事業対象者（本事業においては小学生とその保護者）の地域における生きがい、やりがい、楽しさ実感をつくる」という目標が、本事業のみで実現したかどうかを測ることは困難なことも事実である。なぜなら、学校をはじめとして、各種習い事やスポーツ少年団などの活動もまた、対象者に何らかの影響を与えていることは明らかであるからだ。しかし、生きがい、やりがい、楽しさを実感できる時間と場が、対象者の生活上の1コマに、本事業によって新たに生み出された（付加された）ことだけは確かめられた。</p> <p>(3) 中長期アウトカムへのつながり 中長期アウトカムで掲げた「親子間のコミュニケーションを育てる」そのための素材やきっかけを本事業が提供し、実際に家庭内の親子の対話がふくらんだ例や、事業によって体験したことをこどもの発案で家庭内でも追体験するという好例が、今回の調査によって複数確認できた。</p>
--

(2) 実施体制

内部/ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	総括、聞き取り調査	曾我 直人	代表取締役
内部	評価の大枠を設計	福田 琢磨	取締役

4. 事業の実績

(1) インプット（主要なものを記載）

①人材 *主に活動したメンバーの数 (5) 人	氏名	主な役割		
	曾我 直人	事業全体の方向性を指揮		
	福田 琢磨	事業の管理		
	曾我 出	長期休み学童支援員、みかん箱講師		
	嶋田 めぐみ	長期休み学童支援員、みかん箱講師		
	丸口 弘之	長期休み学童支援員、みかん箱講師		
②主な資機材	資機材名	用途		
	加湿空気清浄機	活動空間の衛生確保、ほぼ毎日稼働		
	ホワイトボード	みかん箱での授業で毎回使用		
	机、イス一式	みかん箱での授業で毎回使用		
	FF ストープ	冬期間の暖房として常時稼働		
③経費実績（概算）	契約当初	実績	差額	
	事業費の総額	24,540 千円	24,500 千円	40 千円
	休眠預金からの助成額	20,803 千円	20,803 千円	0 千円
	自己資金	3,737 千円	3,697 千円	430 千円
④本事業に投入した自己資金の種類と金額	名称	金額		
	みかん箱会費	1,816 千円		
	ひのてんQ会費	763 千円		
	会社の自己資金	1,118 千円		
	合 計	3,697 千円		
⑤自己資金の資金調達で工夫した点	みかん箱の小学生の1回あたりの利用料金は、初年度 500 円、2 年目 750 円、3 年目 1,000 円と段階的に値上げした。そのことに対して、年を追うごとに、授業内容に対する評価も高まったため、値上げに対する保護者の負の反応は起きなかった。			

(2) アウトプットの実績

アウトプット 1	函館圏において、小学生の保護者が我が子の最低限の学びを保証できる場の設置
1) 指標	我が子の最低限の学習能力が保障されているかの保護者の不安度および満足度
2) 初期値/初期状態	我が子の学習面の不安を抱えながらも解決策が見出だせず、先送りされている状態
3) 目標値/目標状態	対象保護者が、本事業を周知し、活用が常態化すること
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度3月
5) 実績値	2022年12月時点で、平日(月)～(金)に、小中学生20名が毎週通っている。定員の20名が補助事業の期間中、常時充足され、受益者(保護者と子ども)が、その活動に満足していることから、概ね達成できたと言える

アウトプット 2	函館圏において、小学生が学ぶことの楽しさに触れられる機会の提供
1) 指標	小学生自身の学びに対する関心と意欲の有無
2) 初期値/初期状態	学校の授業についていけない小学生に対する、学習面のケアがされていない状態
3) 目標値/目標状態	対象小学生が、本事業を周知し、活用が常態化すること
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度3月
5) 実績値	みかん箱には、下記2つの理由から、保護者が申し込まれる場合がほとんどであった。 (1) 我が子の学校のテストの点数や宿題に取り組む様子を見て、その理解度に保護者が不安になり相談に来られる場合 (2) 学校での授業の枠をこえて、みかん箱で学びのおもしろさに我が子が触れることを期待して来られる場合 実際の現場では、両方のタイプが一緒に少人数のクラスをつくり、毎回、参加者が考えを出し合いながら探究型の授業が進行した。 今回、学校の勉強に苦手意識のある小学生も含め、調査対象の6名のこどものほぼ全員より、毎回楽しいから自発的に通ってるとの回答が得られた。よって当アウトプットは、概ね達成できたと言える

アウトプット 3	函館圏において、小学生の保護者が、長期休み中に安心して子ども預けられる場の設置
1) 指標	長期休み中における保護者の子育てにおける不安度および満足度
2) 初期値/初期状態	長期休み中の我が子の家での過ごし方に不安を抱えながら仕事をしている状態
3) 目標値/目標状態	対象保護者が、本事業を周知し、活用が常態化すること
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022 年度 3 月
5) 実績値	各年度の登録者を 16 名の定員（当初の計画時は 20 名だったが、函館市内におけるコロナ感染の拡大により、20%減らす形で募集を行い事業を実施）で行った。毎年度、定員が充足され、受益者（保護者と子ども）が、その活動に満足していることから、概ね達成できたと言える

アウトプット 4	函館圏において、小学生が充実した長期休み期間を送ることができる場の提供
1) 指標	小学生自身の長期休みに対する充実度
2) 初期値/初期状態	留守家庭の小学生にとって、長期休みの過ごし方が、ほぼ放置された状態
3) 目標値/目標状態	対象小学生が、本事業を周知し、活用が常態化すること
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022 年度 3 月
5) 実績値	参加登録者の約半数にあたる 9 名のこどもの保護者より回答が得られ、期間中の活動内容について、すべての方が好評価をしてくれた。こどもが、貴重な体験を重ねることに満足する回答が多く、概ね達成できたと言える

(3) 外部との連携の実績

「1」一般社団法人ワールド・ミート・ジャパンが主催する「第015回はこだて国際民俗芸術祭」のフェスティバルとは、2022年度の夏休みの学童保育期間に連携を行なった。

「連携内容」

(1) フェスティバルに招聘されたアーティストを、学童保育の場に派遣してもらいミニライブとWSを開催

(2) フェスティバル会場に、ひのてんQのこども達と訪問し、フェスティバル自体の空気感を体験する

「2」2022年秋、全国学童保育連絡協議会が実施する、全国研究集会（オンライン）に参加し、同じ課題や悩みを抱える全国の仲間と議論を重ねることで、非常に多くの示唆を得た。

5. アウトカムの分析

(1) アウトカムの達成度

①短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム1	函館圏において、小学生の保護者が、仕事のやりがいと生きがいを獲得する
1) 指標	保護者の仕事のやりがい、生きがいの達成度
2) 初期値/初期状態	保護者が漫然と日々の忙しさをこなしている状態、生活維持に追われている状態
3) 目標値/目標状態	保護者の生活上の安心感の増大
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度3月
5) アウトカム発現状況（実績）	最低限、下記の構図はつくり出せたと考える。 「我が子が長期休みの学童保育とみかん箱で、充実した時間を過ごしている」 → 「保護者は、不安要素を払拭して安心して仕事に専念できる」 本事業によって、保護者の安心感の増大は、調査により明らかである。しかし、仕事の意欲向上や成果に結びついたかまでを測ることは困難であった。
6) 事前評価時の短期アウトカム	

短期アウトカム2	函館圏において、小学生が地域で生きることの楽しさを実感できる
1) 指標	小学生の生活の満足度、自分の未来に希望をもっているか
2) 初期値/初期状態	小学生が、学校生活、放課後の生活、家庭での生活、この3つの生活に楽しさを充分見い出せていない状態
3) 目標値/目標状態	小学生が3つの生活に楽しさを見出している状態
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度3月
5) アウトカム発現状況(実績)	保護者への聞き取り調査により、家庭内で、こどもがひのてんQやみかん箱での出来事をよく話してくれるという報告が多くの保護者から聞けることができた。ひのてんQで取り組んだ内容を、家族で追体験するという例も見受けられた。少なくとも、学校外の時間(長期休みと放課後)においては、両者(放課後の生活と家庭での生活)に好循環が生まれている。
6) 事前評価時の短期アウトカム	

②アウトカム達成度についての評価

<p>本事業では、下記2つの社会的課題の解決に取り組んだ。</p> <p>(1) 学校の長期休みのみ預かる学童保育が函館圏では希少な存在のため、困っている親子がいる状態。</p> <p>(2) 利用料の安価な学習サポート塾が函館圏では希少な存在のため、困っている親子がいる状態。</p> <p>「達成度の1段階目」</p> <p>上記の2つの悩みを埋める場が補助事業によって新たに開設され、それぞれの場の定員が補助期間中、充足していたという実績だけを見ると本事業の1段階目は成功と言える。</p> <p>「達成度の2段階目」</p> <p>2段階目として、こどもが、自主的にそれぞれの場に通い続け、場で過ごす時間を楽しさを実感できているかという点も達成度を評価する際には重要である。なぜなら、こどもが通所(塾)拒否の感情を示したりすると、保護者にとって新たな不安要素(ストレス)が日々派生してくるからである。</p> <p>また、本事業のアウトカムは、事業のアウトプットにより、保護者やこどもの生きがい創出というものをめざしているため、こどもが場を楽しさを見出しているかはなおさら重要である。</p> <p>そのため本事業では、場の開設と参加定員の充足にとどまらず、そこで実践される内容(質)へのこだわりが自ずと必要になってくる。実際の事業活動では、こどもが日々楽しく通っており、その体験により家庭内の話題がふくらんだ例や、さらには家庭での追体験の実施につながったという実例までを確認できたことにより、本事業のアウトカムがほぼ達成できていると評価する。</p>
--

(2) 波及効果 (想定外、波及的・副次的効果)

(1) 長期休みの学童保育 (ひのてんQ)、(2) 安価な学習サポート塾 (みかん箱)、という本事業によって生まれた2つの新規事業に加えて、弊社がこれまでに実施している、(3) 通常期の学童保育 (ひのてん)、(4) 多世代が楽しめる大型の野外フェスティバル (はこだて国際民俗芸術祭)、この4つがリンクし、その相乗効果により (具体的には関心層や利用層が重なり)、事業拠点のある函館市西部地区エリアに、子育て世代が移住してくるケースが少しずつ定着してきた。

函館市より委託を受けて移住支援事業を長年実施している移住サポートセンターの担当者からは、移住を考えている子育て世代にとって、学童保育を中心に魅力ある活動が重層的に行われていることから、これからも私たちの活動を相談者に積極的に紹介していきたいとの評価をいただいている。

また、2023年1月25日には、日本テレビの朝の情報番組「ZIP」において、「移住者にとっても人気のある学童保育」という視点で特集が生まれ、実際の学童保育の活動の様子や通所する2組の家族の声が紹介された。

(3) 事業の効率性

(1) 保護者の負担額の検証

「長期休みの学童保育利用料金について」

比較対象できる類似事業が函館周辺に見当たらないので、同じ条件での検証は難しい。しかし、我々が通常期に行なっている学童保育を利用するより、保護者の年間負担額は割安である。

(通常期の学童保育利用の場合の保護者の年間負担額 (弊社価格) / 約 85,000 円)

(長期休みのみの学童保育・ひのてんQ利用時の保護者の年間負担額 (弊社価格) / 約 50,000 円)

「みかん箱の利用料金について」

みかん箱は、2022年度時点で、週1利用の場合、月額4,000円の会費で実施している。

おとな1~2人に対し、こども1~4人という少人数クラスで、学習課題も個別に対応する塾という分野では、既存の個別学習塾の単価 (週1利用で月額15,000円~35,000円が相場/民間調査 <https://www.kobetsu.co.jp/manabi-vitamin/jyuku/market-price/>) よりは格安と言える

(2) 設備投資が行なわれた空間や機材、教材は今後、長期間にわたって活用されるかについての検証

ひのてんQ、みかん箱ともに、補助期間終了後も、着実に事業を継続する状況にある。また、両事業ともこの5~10年間に需要が消失する可能性がほとんど考えられないことから、本事業によって投資されたモノは、今後も確実にこの先活用されると言える。

6. 成功要因・課題

「成功要因：事業開始後、すぐに受益対象グループから参加者が集まり活動実績をつくることができた」

事業を実施する私たちの団体が、これまでの長年にわたる活動で地域に一定の成果を示していること（私たちの場合だと、通常期の学童保育所、野外フェスティバル、グループの音楽活動）が、ポイントとして重要であった。とくに、通常期の学童保育のとりくみが大きく、その場において事業開始前より私たちと函館地域の親子との信頼関係が育まれており、それが周辺の子育て家庭へと派生し、新たに本事業の参加者として集うという動きにつながった。

「課題：広く社会的に活動の認知を高めるという成果」

会員を募集するといった広報関連のアウトプットは、ほとんどエネルギーをかけなくとも、定員が充足したことから最小の実施にとどまった。そのため、活動に対して広く社会的な認知を高めるという成果は乏しくなってしまった。

7. その他深掘り検証項目（任意）

8. 結論

(1) 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
①事業実施プロセス				○	
②事業成果の達成度				○	

(2) 事業実施の妥当性

「需要は明確であり、定員はすぐに埋まる見込みからスタート」

本事業は、実際に学童保育実践を行なっている現場において、多数の保護者から寄せられる声から始まった事業であることから、取り組む前から、活動の定員がすぐに充足し、一定の成果が示せることが明らかであった。その際、事業を実施する団体が、これまでの活動で地域に成果を示せているか（私たちの場合だと、通常期の学童保育所、野外フェスティバル、音楽活動）が、ポイントとして重要であった。とくに、通常期の学童保育のとりくみが土台になり、私たちと地域の子育て世代との信頼関係が育まれ、そこから周辺の子育て家庭へと派生し、新たに本事業に参加するという動きにスムーズにつながった。

会員を増やすための広報活動にエネルギーを費やすことなく、定員が埋まったため、あとは内容をどう追求していくかということに焦点をしぼり、個々の活動に取り組むことができた。

9. 提言

「1」あくまで質にこだわった事業内容を追求すること

→ 内容にはさほどこだわらず、まずは実施することに重点を置くという割り切った考えでは、対象者の輪は広がらず対象者もついてこない。

具体的には、みかん箱事業は、自走化のために、保護者が負担する月会費を年々値上げしていったが、それに対する保護者の不満の声はほとんど聞かれなかった。さらに会員の減少という現象も起きなかった。つまり、我々事業実施団体が、受益者に提供する内容の質にあくまでこだわり抜き、そのことに受益者が評価してくれたと言える。

「2」社会的課題を解決する事業の成功要因は、初期に関わるスタッフの力量にかかってくる。

→ 人口24万人の函館市の規模の地域社会においては、事業の既存モデルが存在することがほとんどなく、新しくモデルの構築から行う必要があり、その後、新モデルに対する地域社会の評価がついてきてしだいに軌道にのる場合が多い。

本事業の例では、対象となるこどもは、勉強嫌いであったり、休み中の家での過ごし方がゲーム三昧といった地点から出発する場合がほとんどである。それに対して、スタッフが「新しい世界との楽しい出会い」をテーマにこどもに働きかけ、それに対し受益者

であるこどもは、楽しさを見出し、継続して参加する活動にしていかなければならない。そのため、スタッフの教育者・保育者としての力量がスタート時から問われる。

10. 知見・教訓

「人材の配置について」

本事業のような、新規事業に取り組む場合、事業活動の中心に、新規雇用した新人を配置するのではなく、すでに組織の中で一定の実践の力量をもっている人を新規事業の中心に配置することがポイントである。事業を自走させるための馬力を生み出すためには、初期段階の成果が非常に重要だと考える。事業モデルが形成された後に、新人の人材育成を活動と並行して行う順が望ましいと考える。

「結局は、こどもにとって豊かな保育環境・学習環境をどうつくりあげるかにつきる」活動内容が着実に成果を生み出すためには、一人一人力量をもったスタッフが、複数のチームとして個々の現場に取り組み、互いに研鑽しながら、ゆとりをもってこどもと向き合える労働環境の整備にほかならない。この実現に向けて、こどもの学校外における保育環境・学習環境に対する、行政や社会の関心・理解向上につなげていくしかないと考ええる。

11. 資料（別添）

*添付したものにチェックを付けてください。

	事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
	事後評価報告時の事業計画やロジックモデル
<input type="radio"/>	事業の様子がわかる写真資料
<input type="radio"/>	広報活動の成果品、報道された記事
	アンケート調査結果や実際に使用した調査票
	とりまとめられた白書
	論文、学会発表資料
<input type="radio"/>	その他（ 夏休み・冬休みの活動プログラム ）
<input type="radio"/>	その他（ みかん箱日々の授業記録、入会希望者向け説明会資料）